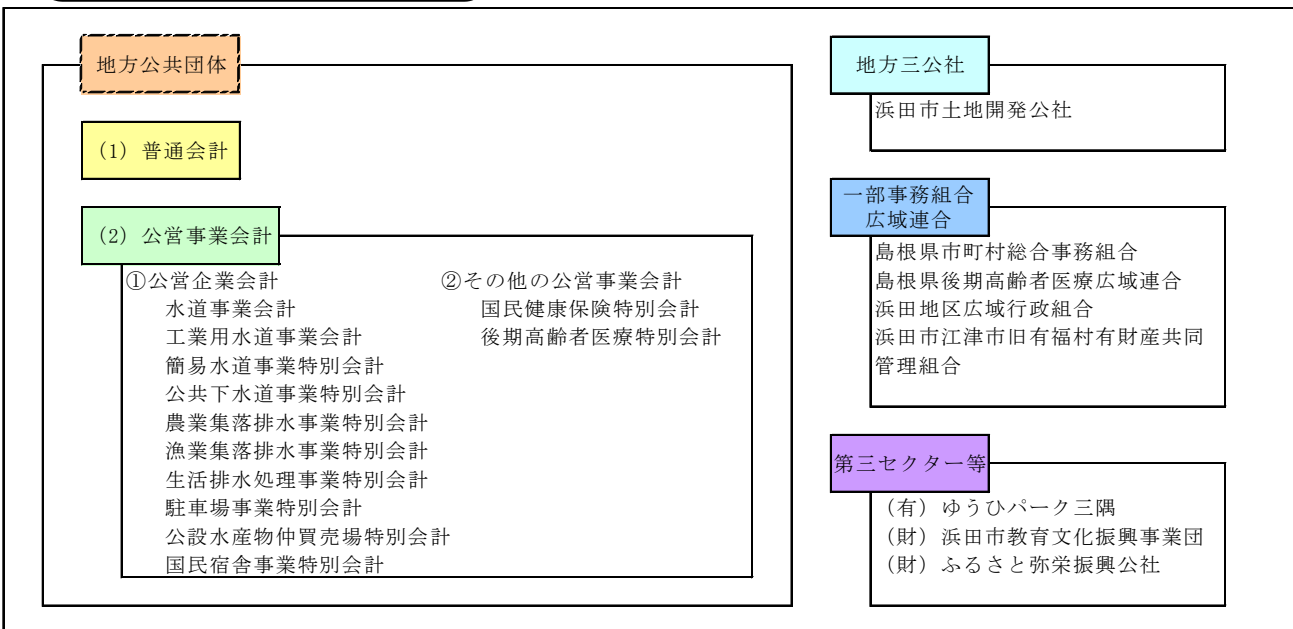


連結財務書類とは

連結財務書類とは、普通会計のほかに、浜田市を構成する企業会計、その他の特別会計や浜田市と連携協力して行政サービスを実施する関係団体・法人を一つの行政サービス実施主体とみなして作成する財務書類のことであります。

浜田市の連結の範囲



(1) 連結貸借対照表

浜田市の平成27年度の連結貸借対照表は、次のとおりです。普通会計単体に対して、資産が509億円増加し、2,271億円となります。負債は246億円増加し、866億円となります。純資産は263億円増加し、1,405億円となります。

借方		貸方	
<資産の部>		<負債の部>	
浜田市と連結対象団体が所有し、行政サービス提供に利用される財産、売却可能な財産及び将来回収する資産など (内訳)		将来世代の負担で返済する債務	地方債や将来支払われる職員の退職金など
公共資産			
道路・公園・庁舎など (水道事業の管渠などを合算)	2,028億円	負債合計	866億円
投資等		<純資産の部>	
基金・貸付金・出資金など	137億円	国または県の負担及び現世代・過去世代が既に負担した分	
流動資産		純資産合計	1,405億円
現金・財政調整基金など うち資金 95.6億円	106億円	負債及び純資産合計	2,271億円
資産合計	2,271億円		

(4) 連結資金収支計算書

連結資金収支計算書は、次のとおりです。

普通会計単体に対比、経常的収支額が10.9億円増加し、公共資産整備収支額が6.2億円減少し、投資・財務的収支額が7.8億円増加します。

期末資金残高については、89.1億円増加し、95.6億円となります。なお、連結財務書類の資金とは、普通会計における現金預金(流動資産)です。

期首(平成26年度末) 資金残高 84.9億円

経常的収支	87.3億円
公共資産整備収支	△13.7億円
投資・財務的収支	△62.9億円
繰上充用金増減額他	0億円

期末(平成27年度末) 資金残高 95.6億円

(3) 連結純資産変動計算書

連結純資産変動計算書は、次のとおりです。

普通会計単体に対して、財源の調達は94億円増加します。

純資産残高は、3億円増加して1,405億円となります。

期首(平成26年度末) 純資産残高 1,402億円

当期変動高	3億円
(内訳)	
純経常行政コスト	△382億円
財源の調達	383億円
(うち地方税)	72億円
(うち地方交付税)	127億円
(うち国県補助金)	166億円
その他	2億円

期末(平成27年度末) 純資産残高 1,405億円

(2) 連結行政コスト計算書

連結行政コスト計算書は、次のとおりです。

普通会計単体に対して、「人にかかるコスト」は8億円、「物にかかるコスト」は40億円、「移転支出的コスト」は192億円、「その他のコスト」は7億円それぞれ増加した結果、経常行政コストは247億円増加し、568億円となります。

一方で、経常収益は152億円増加し、186億円となります。その結果、純経常行政コストは95億円増加し、382億円となります。

経常行政コスト(A) 568億円

(内訳)

- ・人にかかるコスト 66億円
職員の給与・退職手当など
- ・物にかかるコスト 145億円
光熱水費・修繕費・減価償却費など
- ・移転支出的コスト 344億円
社会保障給付・各種団体への補助金・他会計への繰出金など
- ・その他のコスト 13億円
地方債の利子など

経常行政収益(B) 186億円

施設の使用料や手数料など、行政サービス提供の対価として得られた財源です。

純経常行政コスト 382億円

(A) - (B)

経常行政コストから経常収益を差し引いた純粋な行政コストです。